

日本

ハンザキ研 研究所ニュース 2009(3) : 通巻 No.39

2009(3) : 通巻 39

発行 2009年3月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info @ hanzaki. net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

ハンザキ研をめぐるスター

オオトリノフンダマシ

葉っぱの上にカマキリの頭が乗っている！？ そんなことはありませんですよ？でもやっぱりカマキリの頭というか顔に見えたのです。不思議に思って手を伸ばしたら細い足が出てきて動き出しました。それはクモだったのです。なんということでしょうか、初めてのご対面で大感激でした。環境調査会社ウエスコのメンバーとは長い付き合いになりましたが、色々な生き物に専門的な職員がいて、クモ大好きな野嶋さんに調べてもらいました。野嶋さんは、東京のタヌキを卒業論文で纏めたというのに、社会人になってからは“スパイダー”にのめりこんでいるそうです。すぐに返事が来たのですが「鳥の糞だまし」というよりも「カマキリの顔だまし」の方がぴったりの名だと思います。



図鑑を見てみると、メスの体長は10~13mm、オスは2~2.5mmというノミの夫婦そのもののサイズで昼間は葉裏で休んでいて、夜間に大型の同心円状で横糸に強い粘着力のある巣を張ってガなどを捕まえて食べているそうです。ガには分厚い鱗粉があって普通の糸では捕まえにくい所を、横糸でキャッチしているようです。子供の頃には、クモの巣にコガネムシなどを投げつけて、巣の主がサッと素早く駆け寄り糸でぐるぐる巻きにする光景を楽しんだものです。これは残酷なのでしょうか？餌付けでいけない事なのでしょうか？



写真1 湯原に残された石川標本



写真2 湯原のハンザキ山車



写真3 丹波県民局のイベント



写真4 ミニ・アクアリウムの拡充



写真5 食害されたヒキガエル



写真6 右後6指のイモリ

まにわハンザキ・ミーティング

岡山県の湯原温泉はハンザキ研究の発祥の地と言ってもいいだろう。オオサンショウウオの昔の標準和名は“ハンザキ”であったが、これは岡山県を中心にした瀬戸内海地方の呼び名であった。旧・湯原町は平成の大合併によって旧・真庭郡から真庭市湯原町に変わった。明治の時代に、東京帝国大学の石川千代松教授がハンザキの調査を行っており、ハンザキの近代的な研究が開始されたと言っていいだろう。石川先生が残されたハンザキの卵や幼生の標本が今も残されて、保護センターに展示されている。湯原のオオサンショウウオ保護センターは日本唯一のものであるが、その現状には悲惨なものがあつた。

私が、ハンザキの調査を昭和50年に開始するに当たって、これらの施設を視察した時には、松尾教育指導主事が在任しておられ、幼生は半年ほど何も食べないで冬を過ごしているという話を聞かせていただき驚いたものだった。それから20数年たって再び訪れたセンターは、生き物を飼育展示している施設にもかかわらず無人と言うことになっていた。石川標本はショーケースの中で転倒し幾つかのピンは破損して標本が干物になっていたり、ラベルも裏返しになって読むことが出来ないという状態で、石川先生が嘆いているだろうと思ひやつたものだった。小さな水槽に閉じ込められた中国ハンザキの尾は真っ直ぐに伸びることが出来ずにしゃちほこの様に尾が反り返っていた。

湯原温泉では、毎年8月7～8日にハンザキ祭りを開催しているが、1体が500万円したというオス・メス2匹のハンザキ山車を引き歩く。ただそれだけではハンザキの保護や啓発には繋がらないので、同時にハンザキ・シンポジウムを開催するように提案した。ちょうど、新しい真庭市が発足した時でもあり、文化財担当者もこのままではいけないと言うことで保護センターの整備も徐々にではあるが始まつたようだ。

全国組織のオオサンショウウオの会の平成22年度開催を真庭市教育委員会が引き受けていただきましたので、それに向けてさらにいっそうの整備態勢が整うことと期待しているところです。行政だけに任せて置くのではなく、民間もその体勢を具体的な行動で現すべく、“真庭遺産研究会”のメンバーが中心になって活動を始めたのです。その最初の会合として実施されたのが“まにわハンザキ・ミーティング”です。20名ほどのメンバーが参加し、私たちの他にも鳥取県からや、コンクリート・ブロックの“はんざき”メーカーの地元ランダス社などからの異色の参加もありました。市教育委員会の担当の方も積極的な発言で、来年度のオオサンショウウオの会に向けた意気込みを示していただきました。

帰りに、おなじ岡山県内の勝田町の“あんこう祭り”のスタッフとの話し合いが持たれましたが、こちらも名前だけで少々マンネリ化していた所なので、生野町の呼び名と同じ「あんこう」同士で交流を持つことになりました。このように、多くの方々がハンザキに関心を持ってくれるようになれば、湯原に「鯢(はんざき)大明神」を私財をなげうって現在に伝えた石川先生にも喜んでいただけることと思ひます。「鯢大明神」では、祭りの当日に僧侶と神主が揃って神事・仏事を実施しますので、一度見学してみてください。

たんば環境保全活動グループ交流会

ひょうごグリーンサポーター研修会で事例発表会が3月13日にハンザキ研で開催されました。丹波県民局が事務局の活動で、午前中はオオサンショウウオの話と保護センターのプールで成体をミニ・アクアリウム水槽では0歳～3歳の幼生を見ていただきました。午後からは4組の発表がありました。

事前の連絡で40～50名くらいと言うことで、教室では狭いので体育館をミニ・ホールにするべく、NPOの事務局員10名で整備をしました。校舎のあちこちに残っていた机と椅子を運び込み、まだ寒い季節なので倉庫にあった大型のストーブを数台セットしました。それでも寒かったようで、休憩時間にはストーブの周りに輪ができていました。この冬はそんなに寒くなかったのですが、4月に入って2回も数センチの積雪があったくらいですから仕方ありません。

事例発表

多紀連山のクリンソウを守る会「クリンソウ自生地保護活動」

2007年に大群落が発見され、4000㎡ほどに6万株が推定されたそうです。秘密にしておいても登山道のそばであり、この群落ではすぐに分かってしまうであろうと言うことで、看板を立てて自生地の公表を行った由です。これだけの群落が形成されたのは、他の植物がシカの食害を受けたためではないかとの意見がありました。増えすぎた鹿の問題は早急に対策を建てねばならないと思います。

丹波地域のホトケドジョウを守る会「丹波地域のホトケドジョウの保全・探索活動」

ホトケドジョウは兵庫県を西限として青森県を除く本州に生息しているが、丹波地域の3か所が西限となっているそうである。1993年に溪流生のナガレホトケドジョウが新種として発表された。雨が無いと流れが消えるような源流域に生息しているナガレホトケドジョウは、従来の魚類調査では対象外の水域のため人目につかなかったのであろう。一方のホトケドジョウは比較的ヒトの生息域に近い水域にいるため、開発などのダメージを受けやすいと思われる。悪戦苦闘しながら、なんとか保全をしたいと観察を続けつつ、新たな生息地の探索も行っているそうである。

篠山市地球温暖化防止活動推進連絡会「活動状況について」

マイバッグ運動・出前環境教室・自然観察と体験学習・もったいないカルタ・デカンシヨ祭りに連を組んでプラカードを持って参加・講演会&パネルディスカッションなど

丹波市地球温暖化防止活動推進連絡会「活動状況について」

マイバッグ持参運動・環境紙芝居・市の文化祭などでPRブース・ケナフの栽培と杖の作成
他のエコ・グループとの協働など

とは温暖化防止活動と言うことで、各地で実施されていることが多いのですが、ケナフで100本の杖を作ってプレゼントと言うのはユニークでした。ただ、ケナフは外国産の植物で本当に環境に“やさしい”のかどうか論議のあるところですので、慎重に扱ってほしいことを付け加えさせていただきました。

NPO 法人としての初の総会が開催されます

“ 5月23日の午後、設立総会と同じ但陽会館が会場です ”

昨年の4月に設立総会ということで会員の皆様方に多数お集まり頂き有難うございました。8月に兵庫県の認証を受けて、正式にNPO(特定非営利活動)法人としての活動を開始いたしました。いろいろ不慣れなことばかりで、戸惑うことが多かったと言う印象を強く受け止めています。まずまずの活動・評価状況であったと思います。会員数も当初の目標であった200名を超えることが出来、皆様方の御支援に感謝しております。

総会などと言いますと、少々肩肘張った堅苦しい会と言う印象が強いのですが、気軽にご参加ください。何しろ、設立総会の写真(当ニュース 27 参照)を見てください。ずらりと並んだ正装の役員方の中央で理事長の私はノーネクタイ、副理事長の大沼さんは調査現場から駆けつけての作業服姿です。他の役員の方には申し訳ないのですが、私はネクタイ(首輪)が苦痛なのです。大学を出てすぐに教師になりましたが、始めこそネクタイでしたがすぐにやめました。都心のお坊ちゃん学校の生徒たちには不思議で仕方なかったようです。湿度の高い夏の日本では変な外国の習慣を取り入れるほうがおかしいのではと言う、私の弁明に生徒たちは素直に納得してくれました。会員の皆様方にも、この気軽な考え方でのお席をお願いいたします。年にただ1回のお会いかもしれませんが、直接お話できる機会としたいと思います。

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

早くも3か月が過ぎ、在所日数は75日になるので年300日の平均的なペースである。今月は、このコラムがハンザキ研日誌とは別のページになっている。日誌に記録することが沢山あってのことで、年度末とは言え、これだけ行事が集中してしまっただけでは身が持たない。一体私はここで何をしているのか?しようとしているのか分からなくなってきた。やりたいことはいくらかでも有り、今日はあれとこれをやろうと考えていても、飛び入りの見学者がやってきたりすると、1~2時間があっという間に飛んでしまう。もっともっとハンザキ研の整備を進め、見学者への見やすい展示に変えたいと思っていてもなかなか進まない。

そんなことを言いながら、このハンザキ研の生活に満足し日々を過ごしているのが現状です。東京都立川市の兄から庭の池でヒキガエルが産卵したという月初めに、早速近くの産卵場に出かけたが、まだだった。標高100mの立川と650mの生野では半月の差が有って、その後産卵を確認した。ここは、イノシシのヌタ場になっていて、卵の一部が陸上に跳ね上げられて干からびていた。一部は、降雨の後で流されていていつもは水の無い道路の側溝に落ちていた。その卵塊を校庭の湿地ビオトープへ収容したが、白い死卵が目立った。ガマとして嫌われていたヒキガエルであるが、生息環境が狭められ希少動物の仲間入りだ。更に、今年も産卵場での食害を見た。ラスカルの対策が早急に必要だ。

ハンザキ研日誌

2009年3月

- 3日 大阪府安威川ダム建設事務所・川上氏他4名来所(幼生の飼育状況視察など)
- 4日 東京商工リサーチ姫路支店取材に来所(NPO法人としての活動状況など)
仮設レンタル・トイレの配管修理(凍結破損部)
- 6日 兵庫県但馬県民局県土整備部・窪田部長来所(出石川オオサンショウウオの件)
- 7日 NPO事務局会議(午前中は体育館のミニ・ホール化整備、午後会議)10名
愛知県瀬戸市文化課・服部氏来所(蛇ヶ洞川の報告書の件で)
第280回調査終了(2月28日~)
- 8日 兵庫県生物学会・懇親会(ハンザキ研の活動報告)
オオサンショウウオ保護センターのポンプ2号機故障(ベアリングの寿命か?)
- 10日 第281回調査開始(~3月14日)
オオサンショウウオ健康診断(柿木研究員・日本野鳥の会の脇坂英弥氏他)
- 11日 岡山県真庭市で「まにわハンザキ・ミーティング」(栃本・奥藤・池上参加)
- 12日 岡山県勝田町「あんこう祭り」の打ち合わせ(同上のメンバーで)
体育館をミニホールにして写真パネル展示
- 13日 ハンザキ研にて丹波県民局「たんば環境保全グループ交流会」平成20年度第3回ひ
ょうごグリーンサポーター研修会 事例発表会43名参加
- 14日 大雨で河川が増水し、ポンプ1号機に落葉などが詰まる
第281回調査終了(3月10日~)
- 15日 神戸市水道局主催「くらしと水環境を考えよう」宝塚市にて講演
- 17日 円山川水系自然再生推進委員会出席・豊岡市にて
兵庫県環境課・生物多様性ひょうご戦略会議(上記・委員会への出席のため欠席)
- 18日 兵庫クロスネット協議会へ出席・神戸市にて
- 20日 第282回調査開始(~?月?日までになりますか)
- 21日 兵庫県八鹿土木・朝来事業所の山本課長補佐来所(次年度の打ち合わせ)
丁字谷のヒキガエル産卵確認(3月6日にはまだだったが)
- 22日 NPO法人オーガニック・ライフ・コーポレーション福本理事長など3名来所
- 24日 ミニ・アクアリウムに90㍓水槽8本設置(合計23の水槽となる)
- 25日 梅ヶ畑のヒキガエル産卵場調査(昨年に続いて食害あり)
- 26日 大分県生物談話会会長・佐藤真一先生他来所
- 28日 モンドリ定期調査~29日(イモリの左後肢6指個体確認)
カニカゴによるオオサンショウウオ定期調査~31日(3個体測定・全個体再捕)
- 29日 鳥取大学・岡田 純氏等2名来所
- 30日 京都大学・田口勇輝氏等2名来所
兵庫県八鹿土木事務所へ、来年度のオオサンショウウオ保護センター日常飼育管理業
務の打ち合わせに